

20. 大建工業株式会社／株式会社オロチ（1/2）



■基本情報

企業名	大建工業株式会社	株式会社オロチ
本社所在地	大阪府大阪市北区	鳥取県日野郡日南町
設立年	1945年	2006年

■取り組みの背景・認識した地域課題

森林が伐採期を迎えるも、外国産材との競争に苦戦、
そうするうちに林業事業者の高齢化を迎えつつあった

地域課題	地域資源
------	------

森林産業の維持

- 過疎化、高齢化の進行が深刻で、林業事業者の高齢化も進んでいる。このまま高齢化や退職が進むと、豊富な森林資源を将来にわたって維持管理・活用していくことが難しい状況に直面してしまう。産業を振興し、就業者が増える流れを構築することが求められている。

用途開拓

- 大量の森林資源を保有するにも関わらず、試算されたポテンシャルの6分の1程度（年間約3万m³）しか供給できていなかった。外国産材との差別化を図るため、加工業を立ち上げ、高付加価値な商品を開発、供給先を拡げることが求められた。



伐採期を迎えた森林資源

- 日南町は、戦後に大規模な植林を行っており、樹木が育って、本格的な伐採の時期を迎えている。平成18年当時の分析で、日南町全体では年あたり17～18万m³/年の木材を収穫できる森林資源があった。

様々な主体が培ったノウハウ

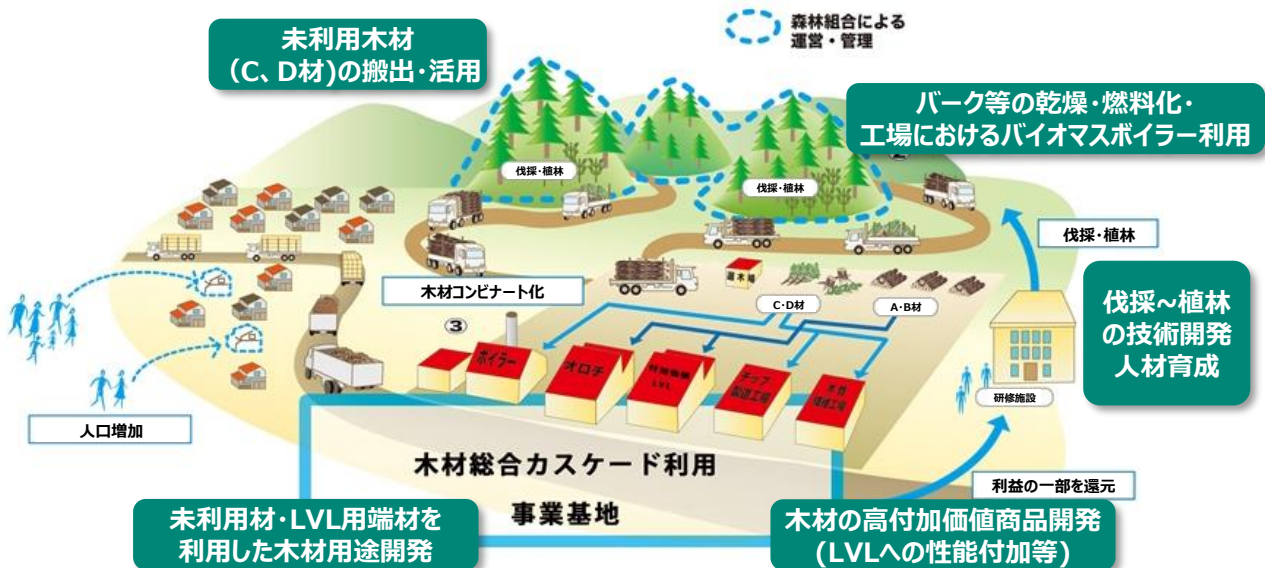
- 日南町には、長年に渡って地元林業事業者が培った技術・ノウハウが蓄積されていた。大建工業には、建材メーカーとして培った技術開発力が蓄積されていた。



■商品・サービス内容

新用途を開拓する技術を開発、地域外企業とも連携して森林資源を余すことなく利用する森林資源のカスケード利用を実現、獲得した利益で林業アカデミー等を運営して人材育成や更なる技術開発に取り組む

- 大建工業株式会社（以降、大建工業）は富山県にルーツを持つ大手建材メーカー、株式会社オロチ（以降、オロチ）は鳥取県の木材加工会社である。両者は鳥取県日南町で、他の企業とも連携して「木材総合カスケード利用」に取り組む。
- 地元の森林資源を活用して木材を加工、高機能のLVL（単板積層材）として全国各地へ販売するほか、加工工程で発生する端材（木材チップ）を解繊処理し、植物の生育促進効果のあるフルボ酸を添加した土壌改良材「DWファイバー」の開発に成功、土砂崩れの予防、津波で塩害を受けた地域の防潮林の再生、農作物の生育促進などに貢献する。
- また、日南町で合弁会社「日南大建」を設立し、森林資源のカスケード利用などより多様・広範囲な資源循環を目指すほか、地元で培ったノウハウをベースに、新しい技術の開発や人材育成を行い、地域の過疎化抑制にも貢献しようとしている。



DWファイバーと斜面緑化



LVL



20. 大建工業株式会社／株式会社オロチ (2/2)

A. 事業化・事業拡大の経緯

① 構想・企画

- 日南町長と森林組合が連携し、木材加工事業の立ち上げを企画、「自給率向上」を国策として掲げていた政府・林野庁に支援を依頼した。
- 協議の結果、地元の関係者が出資し、年間5万m3規模の木材を取り扱う事業会社オロチを立ち上げるようになった。
- 林野庁に在籍していた現オロチ社長の森氏は、町と林野庁の協議に参加していたが、過去に日南町等に出向した経験があり、地方における林業の振興に課題認識を持っており、新会社の代表に就任することになった。

ポイント

地元川上企業が株主となることで資源安定供給を実現

⇒オロチの株主には約400名の地元山林所有者が名を連ねている。所有者は、林業事業者に、伐採した木材をオロチに供給するように依頼することができる。

② 事業化

- 企業発足当初、オロチはリーマンショックの影響やコスト高による赤字に苦しんでいた。しかし、補助金も活用しながら、関係者が協力して林道等のインフラを整備してコストを削減、現在では取扱量は当面目標の5万m3/年となり、6年連続の黒字を達成している。
- 一方で大建工業は、FITにより各地に建設される大規模バイオマス発電所との原材料チップの調達激化を危惧した。それを回避する方法を模索した結果、近隣に大規模な発電所の計画の無かった日南町との連携が有望と判断し、日南町のオロチとの協業が実現した。オロチの木材加工工程で発生する端材を有効活用した土壌改良材「DWファイバー」を全国の顧客に供給する。

ポイント

安定買取で中長期的な投資を促進

⇒オロチが継続的に安定価格で木材買取を行うことを宣言したので、林業事業者が投資や技術修練を実施でき、コストを削減できた。

ポイント

域外からの資金獲得を見据えたパートナーリング

⇒バイオマス資源の域内利用だけでなく、端材を高付加価値化して域外に販売、対価を獲得することも目指して事業スキームを構築。

③ 地域循環共生圏の醸成

- 両者の日南町における協業の第2段として、大建工業、オロチ、日南町森林組合、越井木材工業（大阪市）の4社でLVL（単板積層材）に用いる単板の防腐・防蟻処理などを手掛ける加工会社日南大建株式会社を設立した。2020年夏の竣工を目前に、LVL用単板に防腐・防蟻薬剤を注入するための加工設備を備えた工場を日南町に新設する。ここで加工された単板を用いてオロチが防腐・防蟻LVLを製造、大建工業や越井木材工業が全国各地に供給する。

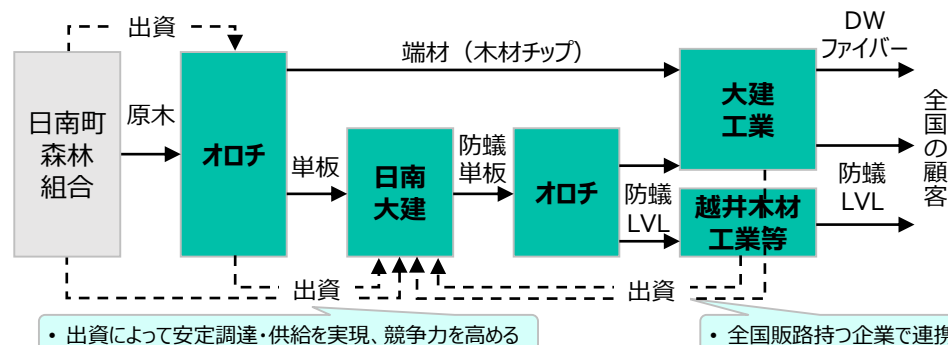
ポイント

都市部に販路を持つ企業を巻き込んだ合併形成

⇒大建工業・オロチに加えて両者と森林組合、全国に販路を持つ他社を巻き込んだ合併会社を設立、川上から川下まで一貫して事業を最適化できる体制に。

B. 運営体制／役割分担

- 日南町の木材資源を高付加価値化するバリューチェーンを形成。



C. 目指す将来像

- 日南町としては、再生可能エネルギーに取り組む。小水力発電とパーク材も活用したバイオマス発電に取り組もうとしている。目的は、系統電力網経由で販売して大きな売電収入を得ることではなく、「地域が自立すること」。熱利用を中心としており、発電容量はスタート時は500kW程度である。日南町役場が主導し、事業の推進を検討している。オロチ・大建工業としてもこの取り組みに協力する。
- 大建工業・オロチとしては、モビリティ分野については具体的な検討は行っていないが、林業に活用する自動運転も視野に入れ、関係企業と協議を開始している。日南町としては、コンパクトビレッジ構築を推進している。「自治体SDGs未来都市」にも選定されている。
- 非住宅用分野の用途・商品開発に取り組む。具体的にはLVLの更なる高付加価値化を進める。